

全ての人が生まれながらに持っているのが人権です。しかし現実には、本人にはどうしようもないことで人権を脅かされ、苦しんでいる人がたくさんいます。それにもかかわらず、人権侵害に遭うのは一部の少数の人だけと思われがちです。自分は被害者にならないと思う人もいるかもしれません。しかし、例えば誰でも年を取るわけで、高齢者になることは避けることができません。

超高齢社会と呼ばれて久しく、ほぼ4人に1人が高齢者である時代です。高齢者の虐待や詐欺被害など、高齢者を取り巻く状況の多くが社会的に問題になっています。高齢者の人権問題は他人の問題ではなく、自分の問題として考える必要があります。

人権は私たちが幸せに生きるための権利でもあります。では、自分が高齢者になったら、どのようなときに幸せを感じるのでしょうか。私は、自分の思いを実現させてもらえたときかなと思います。

こんなことをやりたいと思っても、いろいろなことが邪魔をしてあきらめなければならぬことはたくさんあります。年齢を重ねれば身体的、心理的、経済的に今以

「自分の問題として」

上に制約が増えるでしょう。そういった制約があっても自分の思いが最大限尊重されること、それが一番幸せなことだと思います。

私なら、危なっかしくても自分で動ける限りは自分で動きたいですし、自分の意志で物事を決定し、その決定を受け入れてもらいたいです。周りの人も、本人の身体や判断力の衰えが心配かもしれませんが、自分のこととして考えて話を聞いてほしいです。「話し合った上で相手が決めたことなら尊重する」という姿勢は、高齢者と接するときにはとても大切ではないでしょうか。

とはいえ、実行するのは大変難しく、先日母の話をさえぎってしまつて反省しているところです。

*このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

お問い合わせは

人権啓発広報委員会

(880・6569) まで